

望幸隊を結成

私たちは東日本大震災をきっかけに、市内の防災指定地区である郡山地区と連携し、地域の食料を支援する活動を行っています。食料の調査や、地域の食料を支援する活動を行っています。食料の調査や、地域の食料を支援する活動を行っています。食料の調査や、地域の食料を支援する活動を行っています。

Wiiでコロナで出会う世界

コロナ禍で、人と人とのつながりが断たれてしまいましたが、Wiiというゲーム機を通じて、世界中の人々とつながることができました。Wiiというゲーム機を通じて、世界中の人々とつながることができました。

災害時の不安を軽減できるよう、さまざまな取り組みに挑戦しました！

災害時の不安を軽減できるよう、さまざまな取り組みに挑戦しました！災害時の不安を軽減できるよう、さまざまな取り組みに挑戦しました！

地域食料を活用した防災食料を開発

地域食料を活用した防災食料を開発。地域食料を活用した防災食料を開発。地域食料を活用した防災食料を開発。

令和2年夏号 リーダーシップ 掲載

山口県立田布施農工高校

令和2年夏号 リーダーシップ 掲載

(3) 小学校連携



田布町の農業を支援する活動の様子。田布町の農業を支援する活動の様子。

農業の大変さや楽しさを伝える

田布施農工高生、城南小児童に

田布施農工高生、城南小児童に農業の大変さや楽しさを伝える活動を行いました。田布施農工高生、城南小児童に農業の大変さや楽しさを伝える活動を行いました。



ハロウィーン前にランタンづくりの様子。ハロウィーン前にランタンづくりの様子。

ハロウィーン前にランタンづくり

城南小児童

ハロウィーン前にランタンづくりの様子。ハロウィーン前にランタンづくりの様子。

令和3年6月8日 (火)
中国新聞 掲載

令和3年10月23日 (土)
山口新聞 掲載

田布施農工高 文科大臣表彰

企業、自治体とキャリア教育推進



文部科学大臣表彰受賞を東浩二町長（右端）に報告した（左から）田布施農工高の葉山雅基校長、田村喜久乃さん、酒井悠太さん 11月18日、田布施町役場

田布施町の田布施農工高が、キャリア教育の充実発展に尽力したとして文部科学大臣表彰を受けた。

同校は、2019年度から3年間にわたり文科省の「地域との協働による高等

学校教育改革推進事業」の指定を受けて、将来の地域産業の担い手育成に取り組んできた。具体的には、地域資源を活用した商品を開発したり、町役場職員と未来の田布施町について議論したりするなど企業や自治体と連携したキャリア教育を進めてきた。

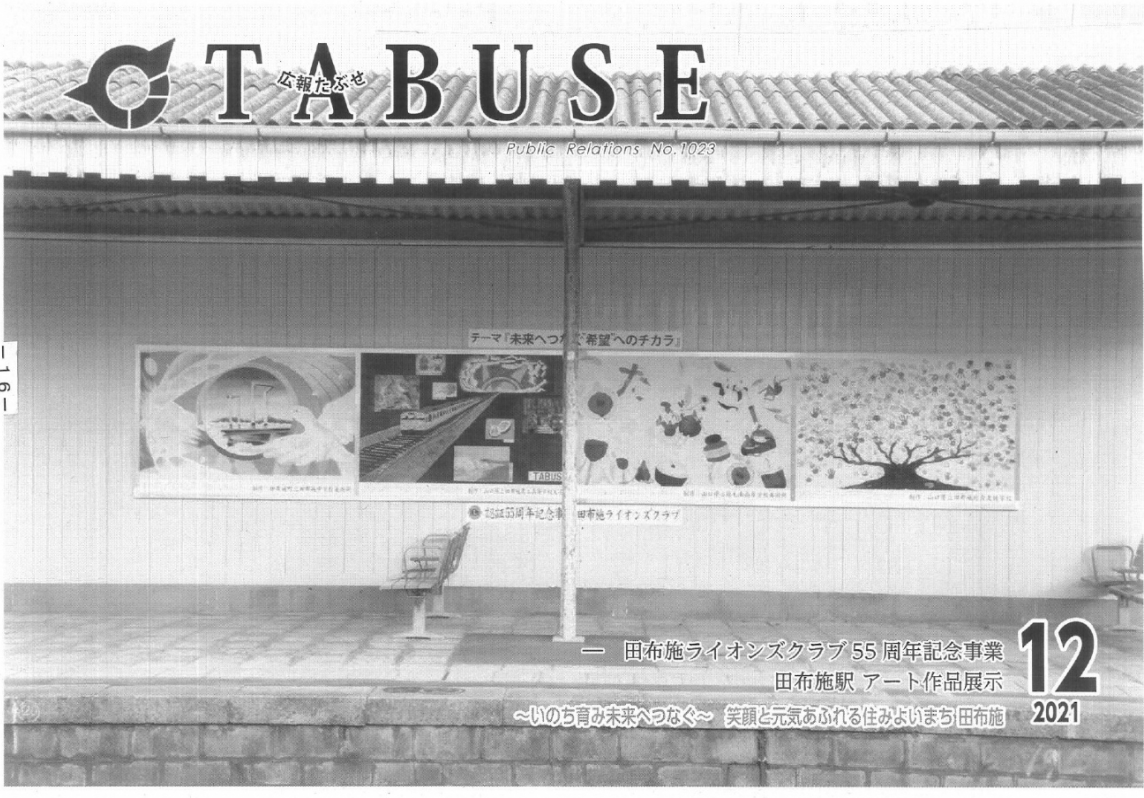
葉山雅基校長や中心となって活動してきた3年の酒井悠太さん（18）、2年の田村喜久乃さん（17）らが18日、町役場を訪れ、東浩二町長に報告した。

酒井さんは「成果を出せたのは地域の皆さんのおかげ

」と喜びを語った。文科省の事業としては21年度で終了するが、同校は取り組みを継続する予定で、田村さんは「22年度は認知度を上げて活動の幅を広げたい」と話した。

同表彰は文科省が06年度に創設。21年度は全国で119団体が選ばれた。

（寺田昌行）



11/6

12
2021
田布施ライオンズクラブ 55周年記念事業
田布施駅 アート作品展示
～いのち育む未来へつなぐ～ 笑顔と元気あふれる住みよいまち 田布施

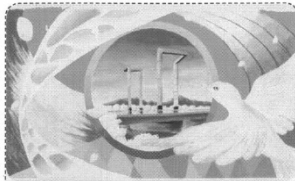
広報たぶせ

12 令和
10 3
日 年
NO.1023

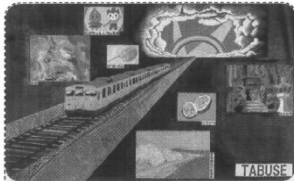
田布施ライオンズクラブ 55周年記念事業
JR田布施駅 アート作品展示の除幕式を行いました



田布施ライオンズクラブの認証 55周年記念事業として、11月21日にJR田布施駅上りホームの待合所でアート作品展示の除幕式を行いました。アート作品の制作には、田布施中学校、田布施農工高等学校、田布施総合支援学校、熊毛南高等学校の4校が参加し、「未来へつなぐ希望へのチカラ」をテーマに制作に取り組んでいただきました。
今回は参加していただいた4校に「展示やアートに対する想い」を聞きました。



田布施町立田布施中学校 3年 山本千裕・林友樹 架
Q. 制作した絵に込められた想いを教えてください。
A. 田布施町がさらに発展してほしいという想いを込め、未来へ飛ばたく鳥とシンボルでもある「さくら橋」を中心に描きました。
Q. 制作した絵が展示されるということで、駅の利用者に向けてメッセージをお願いします。
A. 田布施川、田んぼ、海をイメージし、白のアーチは希望や絆の広がる様子を表現しています。ぜひ、絵を見て田布施町の魅力を感じてください。



山口県立田布施農工高等学校 3年 谷村 蓮
Q. 制作した絵に込められた想いを教えてください。
A. 田布施町が訪れてきた歴史を振り返って、光ある未来へ走り出そうという想いを電車に込めて描きました。
Q. 制作した絵が展示されるということで、駅の利用者に向けてメッセージをお願いします。
A. 田布施町にはまだ知られていない魅力があることを感じてほしいと思います。少しでもいいので足を止めて見てみてください。

11/6 「ジュニアものづくりラボ」を開催

田布施農工高等学校と連携し、中学生を対象とした「ジュニアものづくりラボ」を開催しました。

「3Dモデリングコース」では、専用ソフトを用いてペン立てや模型をテキストに沿って作成しました。今回新たに設置された「ロボットコース」では、ロボットカーを使い動作を制御することを学び、モデリングやロボットカーの操作を通して、ものづくりの楽しさに触れました。



2021 12/10号

令和3年12月号 広報たぶせ 掲載

7 今後の方向性

(1) 地域の未来を切り拓く、地域の人材像の育成について

ア 地域産業の担い手通して幅広い知識・技術を有する人材

(株)三菱 UFJ リサーチコンサルティング「高校魅力化アンケート」調査から、「専門的な知識・技術は身に付いたか」という質問に対して95・7%の生徒が身に付いたと回答したことから、本事業の有用性が大きいことが実証できた。

特に、普段の学校での基礎学習をもとに、地域での発展的な農業に触れることにより実践的な知識・技術の習得に繋がった。特に、JGAP や HACCP 等の学習やドローンなどの IOT 機器を使った新しい農業の在り方に触れることにより、これからの農業について考えるきっかけとなった。今後も、地域の農業について理解を深めるとともに、農業以外の様々な産業と連携した活動を行い、農業を中心とした幅広い知識・技術の習得につなげていきたい。

イ Society5.0 時代に柔軟に対応できる創造力を有する人材

(株)三菱 UFJ リサーチコンサルティング「高校魅力化アンケート」調査から、「自分の考えやいろいろな情報をまとめ、相手に伝えることができたか」という質問に対して72.9%の生徒が身に付いたと回答した。

1年次の科目「産業基礎」では、他学科の授業を経験することで、自学科とは異なる考え方を身に付けることができた。また、3年間を通して専門教科だけでなく、数学等の普通教科においても、地域経済連携システム RESAS の地域の人口や産業等の統計データから学びを深めるなど、幅広い視点で地域の課題を捉えることができた。新型コロナウイルス感染症の影響で2年次より成果を発表する機会が一時減少したが、1人1台タブレット端末を用いたリモートでの発表会の方法を構築して全国へ向けた成果発表会を行うなど、多くの発表の機会を設けることができた。また、MY PROJECT AWARD 西日本 Summit など、様々なコンテスト等に応募し成果があがったことで生徒の自己有用感の向上にもつながっている。

今回の事業では、生徒による「ループリック評価」を作成し評価の観点からも検証を行った。生徒自身が「自分は何を身に付けたいのか」、「力を身に付けるためには何が必要なのか」等、自分を客観的に評価できるようになった。また、評価項目についても「もっと具体的に書いた方が良いのでは」、「この項目は検討した方が良い」など疑問を持つようになっている。常にPDCAサイクルを意識できるよう、令和4年度からの新学習指導要領での評価とも連動させ、学習に取り組んでいきたい。

ウ 世代を超えて他者と協働して課題を解決できる人材

(株)三菱 UFJ リサーチコンサルティング「高校魅力化アンケート」調査から、「地域の課題について考え、行動できたか」という質問に対して71.3%に「できるようになった」と回答した。

コンソーシアムを中心とした外部機関との連携を行い「商品開発」、「耕作放棄地の解消」、「防災公園の設計」、「田布施地域交流館を中心とした田布施町の地域活性化計画」等様々な活動を実現することができた。

活動当初は、連携先の方の生徒に対する対応について、肯定的のみでしたが、活動が重なるにつれ、より良いものを追求するため、建設的な

意見が変わっていき、お互いが高めあう関係を築き上げることができた。それぞれの活動の中で、学校や生徒の価値づけをしていただいたことで生徒の自己肯定感が向上した。今後も、学校と地域がより良い関係を継続し、生徒の学びを深める活動に取り組んでいきたい。

(2) この事業で取り組む地域課題解決に向けての取組について

ア 地域情報の発信力の強化

生徒主体の活動を充実させるため「生徒あい³委員会」を設立した。当初は、学科間の連携を充実させる活動を通して、全校生徒で本事業に取り組む意識付けを図った。そのために、地域と連携した活動を、校内新聞、ホームページ、インスタグラム等のSNSを活用しながら情報発信を積極的に取り組んだ。

活動の中で、コンソーシアム会議や田布施 View 会議への参加の機会を得た。大人と同じ立場で意見交換を通して異年齢とのコミュニケーション能力の向上も図られた。田布施 View 会議での活動は、第6次田布施町総合計画にも反映されており、本事業が地域の今後の発展にも大きく寄与することが考えられる。今後も、地域と連携した活動を発信する方法を考え地域とともに成長していきたいと考える。

イ 農林水産業の担い手の確保と育成

農業関係機関の支援により開催されたアグリフォーラムでは、段階的な人材育成に取り組むキャリア教育を実践した。農業に関連した進学・就職が増加したことが本事業の成果である。特に、農業関連の就職において、農業法人への就農は、一旦進学をした後の就農であったが、この度、高校から直接、農業法人への就職を実現することができ、新規就農者の確保にもつながった。今後も、地域の担い手育成をめざした連携を継続していきたい。併せて、山口大学、山口県立農業大学校との連携をさらに充実させ、高校で学んだ基礎的な知識・技術をさらに発展させた高等技術の習得をめざした人材育成にも力を入れたいと考えている。

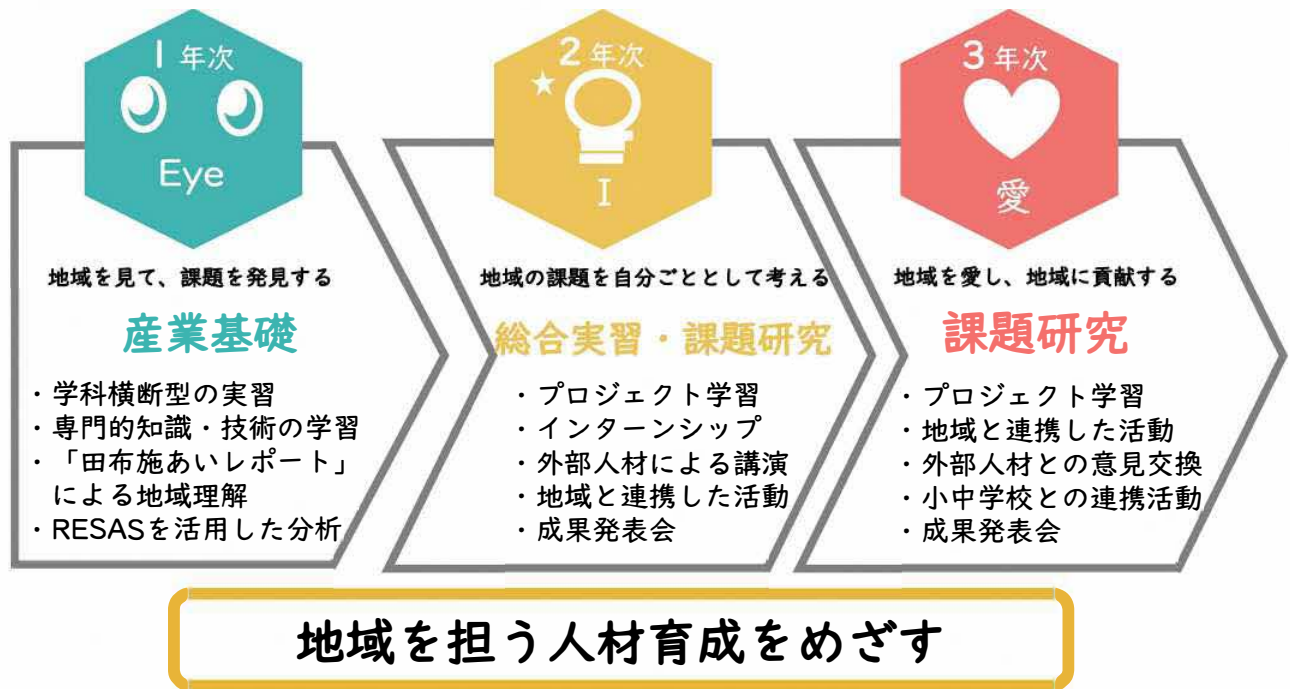
ウ 地域コミュニティづくり

コンソーシアム委員はもちろん、民間、行政、教育など様々な分野の機関や専門家との協働を行いながら教育活動を展開できた。本事業では、学校運営指導委員とコンソーシアム委員を兼ねることで、学校の方針など、明確な共通理解のもとでの連携・協働活動の実施でき、会議も効率的に実施でき、スムーズな運営に繋がり様々な成果を上げることができた。しかし、学校運営指導委員とコンソーシアム委員を兼ねたことにより、評価・検証の部分が不十分となったと考えられる。そこで、コンソーシアム委員会を学校運営協議会のワーキンググループ（子委員会）的に捉えて、そこで採んだ意見等を学校運営協議会（親委員会）で審議するなど、学校運営協議会を評価機関を通して扱う等、適切な評価をすることで今後の活動がブラッシュアップしていくように努めたい。

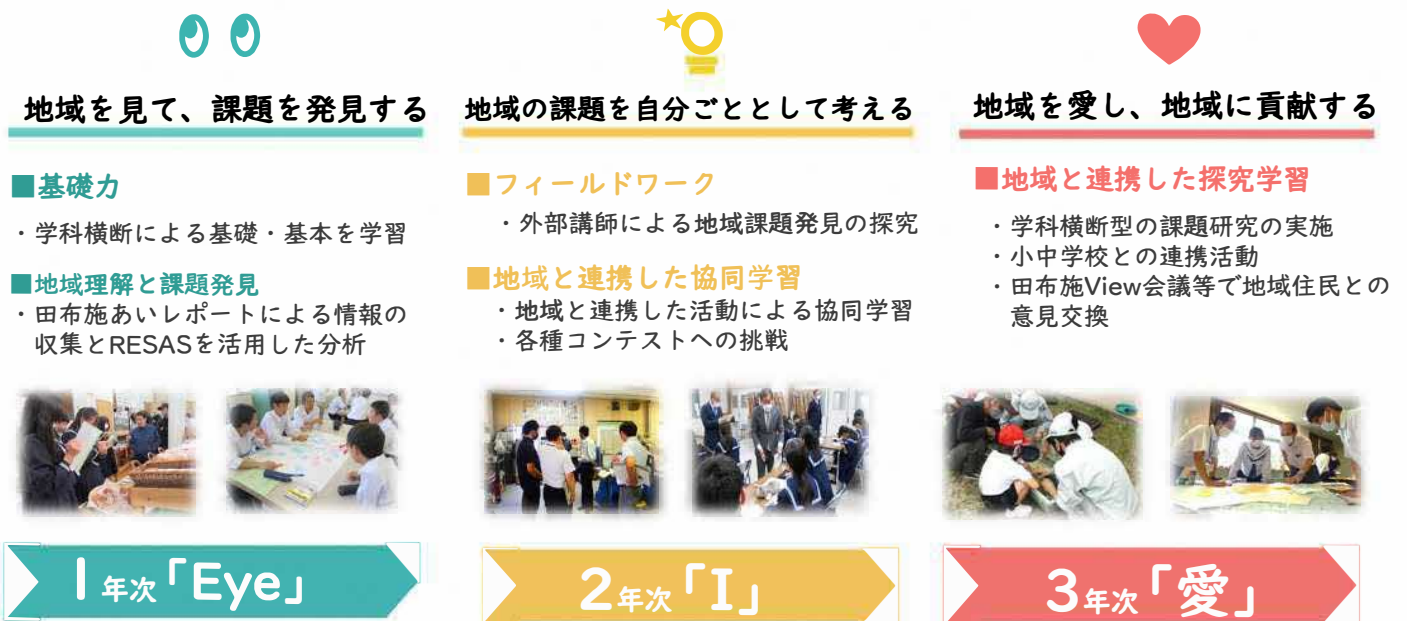
また、田布施地域協育ネットと連携し、低年齢から継続したキャリア教育を行い様々な産業を通じた田布施町の魅力を発見・発信し地域を担う人材育成につなげていきたい。

(1) 3か年を通じたカリキュラム編成

令和4年度より 新学習指導要領へ対応



(2) 具体的な取組 ～あい³プロジェクト～



(3) 具体的な取組 ～キャリア教育～



農工関連視察研修

■企業見学

- ・産業人材実施セミナーの実施

■キャリアガイダンス

- ・職業人の価値観を学ぶ
- ・キャリアパスポートやフォーサイト手帳を活用した情報の蓄積



1年次「Eye」



職業人との連携

■インターンシップ

- ・インターンシップによる職業観の深化

■地域と連携した協働学習

- ・アグリフォーラム等を実施し、先端技術や職業現場について学ぶ



2年次「I」



地域と連携した活動の展開

■地域を拠点としたキャリア教育

- ・地域と産官学が連携した活動の実施
- ・田布施地域交流館を拠点とした活動の展開による経営や企画
- ・各種コンテストや資格取得への挑戦



3年次「愛」

(4) 具体的な取組 ～校内連携強化～

組織体制

■学科をつなぐ体制

- ・専門部に、校内連携の中心となるあい³委員会を設置
- ・委員会には、各学科、普通科教職員を配置し、各学年の指導を実施

■コンソーシアムの継続

- ・コンソーシアム委員会を継続し、地域との連携強化

■あい³パートナーシップ設置

- ・生徒あい³委員会を経験した卒業生が、卒業後も活動を支援

■田布施町地域教育ネットとの連携

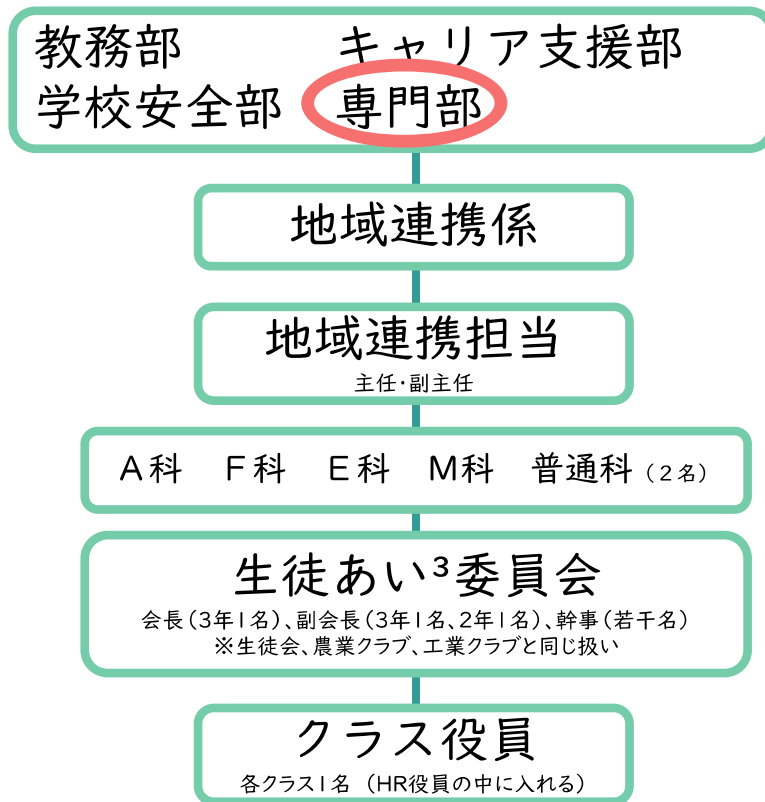
- ・幼保、小、中、地域と連携した低年齢世代からのキャリア教育の実施

教科指導

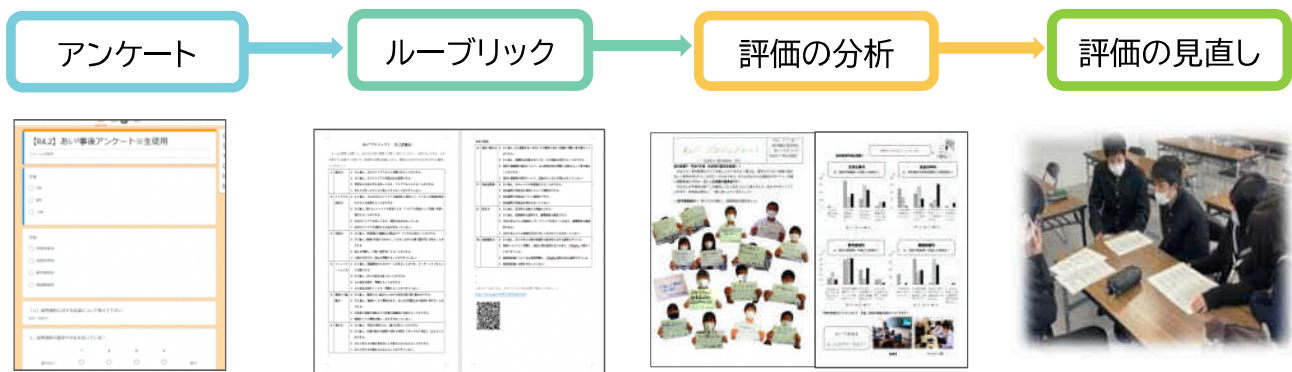
■教科横断型

- ・年3回の教職員相互授業参観の実施（専門教科と普通教科との積極的な連携の模索）
- ・教科横断型の授業展開と公開授業の実施

(5) 校内組織図



(6) 具体的な取組 ～評価システム～



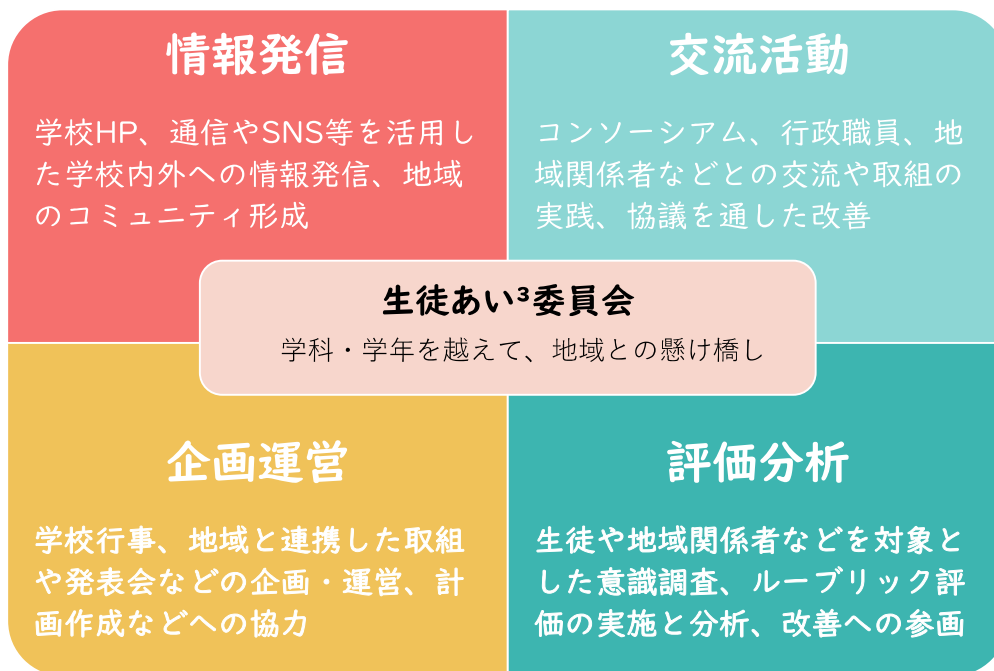
- ・ 学期毎に事前・事後調査実施
- ・ 3領域15小分類
- ・ 4段階による評価基準
- ・ グーグルフォームにて回答

- ・ 各学期末に実施
- ・ 6領域と各学科別の質問
- ・ 4段階による評価基準
- ・ グーグルフォームにて回答

- ・ 生徒あい3委員会がアンケートを分析
- ・ 調査結果を「あい3通信」にて全校生徒・教職員・コンソーシアム委員に配布

- ・ 生徒あい3委員による、評価システムの見直し

(7) 具体的な取組 ～生徒あい³委員会～



第5章 運営指導委員及びコンソーシアム委員から提言

1 運営指導委員からの意見

(1) 第1回運営指導委員会の会議録から

ア 委員からの事業についての質疑応答

【質問】 耕作放棄地とGAPについて、どのような地域課題があり、何を課題として取り組んでいるのか流れを説明してほしい。

(回答) 耕作放棄地の活動については、本校の家畜である牛の肥育改善のために取り組みはじめた。生徒から学校近くの耕作放棄地は使えないだろうかという提案があり、その後所有者の方から土地をお借りして牧草の栽培が始まった。その過程で、地域の畜産農家の方にも、牧草を販売できないかという課題を見つけ進めている。GAPについては実習中の怪我が、圃場や農場の整備を進めていく中で減るのではないかという思いから始めたのがきっかけとなっている。また、GAPを取得することによって、社会で求められる『安全・安心なもの』という付加価値をつけられるのではないかと考えて、まずは学校で取得、その後地域へと伝えていけたらと活動している。

【質問】 県内の高校との交流やネットワーク化には取り組んでいるか。

(回答) フラワーアレンジメントの授業で山口農業高等学校とリモートでつなぎ同じ講師の方から授業をうけた。本校は常に工業と一緒に活動をしているので、今後は商業との連携を考えたい。

(回答) 県内高校の多くが地元の企業や地域の方と連携をしながら、地域の活性化につながる商品開発に取り組んでいる。現在、山口の高校生のハイスクールブランド創出事業ということで、専門学科の専門性を9学科が持ち寄り、模擬ではあるが株式会社を設立した。連携をすることで優れた教育システムなども共有し合うことができるので、山口県すべての専門学科の学習が更に充実していくのではないかと思う。

【質問】 課題を解決するためには一丸となった取組が必要だと思うが、生徒全員を通してモチベーションが上がるような取組はしているか。

(回答) 指摘の部分が課題だと感じ、「あい³って」と思っている生徒たちに、高校3年間の活動の中で何を見つけさせていくべきか考えている。生徒あい³委員会だけでなく、仲間を巻き込みながら、高い意識をもった生徒が増えるようにすすめていきたい。

【質問】 コロナ禍で、地域内での消費の変化や、卒業後の進路について不安を抱えている生徒を捉えているか。

(回答) 都市緑地科は、関連産業への就職は今まで一桁台で推移してきたのが、今年度はクラスの半数近くが就職を予定している。地域のために頑張りたいという生徒が増えたのは、あい³の取組が後押ししている部分があるのではないかと感じている。

(回答) 生物生産科がコロナ禍で一番感じたことは、生産物を実際に販売する機会が減ったことで、生徒のモチベーションが下がった。今後は、活躍できる場を探すことが課題だと感じる。売れ行き自体は、地域交流館を含め

様々で販売しており収入はある。

(回答) 生徒たちは県内への就職、進学が上がるのではと予想していた。就職はわずかな上昇で思ったほどではなかったが、進学に関しては過去数年間で一番良かった。県外進学も、関西、九州まではみられたが、東京から東北、北海道は進学する生徒が減っている。

イ 全国産業教育フェアでの発表動画についての意見

- ・ 高校の活動は、3年たったら生徒が変わる。人が変わっても取組や、活動理念など継続する仕組みを作るといいのでは。
- ・ 事業を進めていく中でできた、エディブルフラワーやアシストスーツなどは、生徒たちが作った成果を、可能であれば、実際のSNSの画面を見せるとすごくリアルに感じる。難しければ、画面をキャプチャすればよい。そのような具体的なものを、3ページに1枚程度挟むとパワーポイントのバリエーションが増えてよい。
- ・ アンケートの結果以外にも、生徒の体験エピソードを示すのも必要だと思う。
- ・ 学校発の情報発信の動画は、コンパクトにまとめたもの以外に、時間制限のないYouTube用の動画など、数パターン考えていくのも必要と思う。

ウ コロナ禍における地域と連携した活動の充実についての意見

- ・ 企業からの情報発信も、オンラインが中心になってきていると思う。情報をうまく選択するための支援や手助けができるものがあればいいように思う。
- ・ 繋がりがなくなって一番困るのは、外部から褒められたり助言されたりする機会が減り、生徒のモチベーションが落ちてしまうこと。それを改善する機会として、オンラインを活用することも良いと思う。一人一台あるタブレット端末をうまく活用していく。
- ・ このプロフェッショナル型の事業は、全国から15校が参加していて、そのうち4校が農業高校となっている。その農業高校と繋がって情報交換や何か連携していけたら。

(2) 第2回運営指導委員会の会議録から

ア 委員からの事業についての質疑応答

【質問】 この事業を行った先生方の意見。

(回答) 教科、学科を超えての連携や課題研究での研究活動の連携ができた。また、コンソーシアム委員の方が、各学科に対してご意見、アドバイス、活動のサポートをしてくださり、プロジェクトが充実した。

イ 生徒あい³委員に対しての質疑応答

- 【質問】
- ・ 3年間の取り組みとこれからの取り組み、方向性や変容。
 - ・ 日常の行動で変わった点、変わってきた点。
 - ・ 町以外から登校している生徒の意識の変化。

- ・ 卒業後に具体的にどのような形で携わっていくか。
 - ・ 委員としての各学科での活動の様子や苦勞。
- (回答)
- ・ 誰かが困っているときに話かけられるようになった。
 - ・ いろんな場面で課題や問題をみつけられるようになった
 - ・ 委員として、もっと町の歴史や文化を知り、もっと知りたいと思った。
 - ・ 卒業後は、OBとして、貢献できたらと思う。
 - ・ 田布施View会議で、さまざまな年代の方々と意見を出し合え、また、会議の中での多くの意見を聞くことができたことが良い人生経験になった。

ウ 今後の継続的な取り組み、生徒あい³委員会についての意見

- ・ コロナ禍の中で地域の方々と一緒にここまでできたことは相当な成果で、すばらしい。また、生徒が卒業後も携わるような持続可能な地域づくりが必要と思う。
- ・ あい³活動を継続していけるように、組織として後輩に引き継ぎをしてもらいたい。
- ・ 4学科のそれぞれの得意分野を活かす形で、具体的な何かしらのアクションに繋げていってもらいたい。地域との接点や課題を学校全体の総力戦で、実際に作りだせるような形ができれば思う。

エ 生徒あい³委員からの要望や今後のアイデアについて

- ・ 生徒あい³委員会は、委員以外の生徒も参加し総勢20名で活動しているが、今後も学校全体に活動を広めたり、地域社会の架け橋になるような活動をしていきたい。
- ・ この状況の中、人との繋がりを大事にし、一步を踏み出す行動を意欲的に高める取り組みを学校のカリキュラムで活用しながら行う。
- ・ あい³委員会が、町の相談所のような関係となれば地域で重宝され、高校の魅力化に繋がると思う。
- ・ 今後も課題解決には、難しい所も多いので、今後も皆で総合的に共有・評価することが大切。

2 コンソーシアム委員からの意見

(1) 第1回学校運営協議会・コンソーシアムの会議録から

ア 3年目を進めるにあたっての意見

- ・ 表現について考えるといいのでは。課題とは、どういうふうに進んでいくか、ということ。前向きな表現で課題を探すと、見る側もやる側も受け止めやすい。「〇〇が望ましい。〇〇も受け入れる」という視点が必要である。
- ・ 課題発見と解決は、「もの」や「こと」に向けて行い、人には向けないということ、どこかのタイミングで生徒に伝えるべきではないだろうか。うま

くいかない原因を探すのではなく、今見えている宝物を探しに行くような目線を、地域や友だち、自分にも向ける。そうするとチームの人間関係も良好に進めることができる。

- ・ 生徒からのアイデア、どこと連携したらよいか窓口を求める声が出ていることが取り組みの成果が出ている所である。
- ・ 農村風景や伝統文化を維持していくために、生産的な面だけでなく、文化的所産面にも目を向けてみる。田布施農工が守っていく架け橋になれる。
- ・ 地域文化・音楽・体育など、地域と教科横断の連携を図ることができる。
- ・ 短期的評価（よくなった時にその場ですぐに伝える）、中期的評価（何ができていて何ができていないのか。どの部分を続けていくのか）、長期的評価（きちんとできていると認める。力がついたらと送り出す）で生徒へのフィードバックを大事にする。

イ 今年度の実施計画についての意見

【質問】 どういったことで連携できるのか探していきたいので、今年度（特に3年生）の取り組みをもう少し具体的に教えて欲しい。

（回答）

- 生物生産科
 - ・ 小学校連携においてICTを使用し、連携を行っていきたい。
 - ・ 田布施町に関わりのある実践的な内容について取り組んでいきたい。
 - ・ ICTを利用したスマート農業について、どういったことができるかを考えている。委員の方に情報をいただきたい。
 - ・ GAPの推進をしている。農場認証がいただけるような形での農場の整備など環境を整えたい。予算的なもの、農場の規模など、課題は多いが見直しをしてすすめたい。
- 食品科学科
 - ・ 田布施町との飲食を通したコラボレーションを行う。
 - ・ 鳥獣被害で農業を断念する方がこの地域は多いように思う。今後、農業を衰退させないよう、ジビエを活用したレシピ開発ができればと考えている。
 - ・ 酒に関して学習している。田布施町は「どぶろく特区」というユニークな制度を獲得しているので、これをどう活用するかを通して地産地消をめざしたい。
- 都市緑地科
 - ・ 生徒が企画運営に携わる防災フェスタを開催したかった。田布施町の総務課の方と連携をとっているが、新型コロナウイルスの影響で実践できない状況が、去年今年と続いている。現在は小学校連携で使用する防災教材を作成中。防災に強いまちづくりについて、生徒が色々な視点から考えている。
 - ・ ICTを活用した土木事業について、生徒に実際に触れさせ考えさせたい。
- 機械制御科
 - ・ 3年くらい前から、ハウスの温度を測るなど農業科と連携したモノづくり

を行ってきた。今年度は、生徒が考えてきた田布施サイクリングコースのマップづくりを観光協会と連携していきたい。

○ 生徒あい³委員会

- ・ 生徒あい³委員として、それぞれの学科のPR動画を作成する予定。動画は無音で映像のみ、10分以内の予定である。事業所・企業で流しても良いところがあれば、アンケートに記入して欲しい。

ウ 今年度の取組、研究協議等の全体についての意見

【意見】 都市緑地科で行っているSDGsについては、現在の2年生をターゲットにして、1年生の時から取り組んでいる。昨年は、企業が実践しているSDGsについてテキストを元に考えさせた。今年度は、SDGsと地域連携・地域課題について、テーマを持って取り組んでいる。また、普通科の先生方からも意見をいただき、校内での連携も広がっている。

【意見】 事業の目的でもある、協働する力、課題を解決する力、地域産業の担い手となる意欲については、自分の進路を念頭に置いた時「地域に貢献したい」という思いと、自分の進路が、必ず合致するとは限らない。3年生が、どのように変化していくかを注視したい。ぜひ、継続して事業を進めて頂けたらと思う。

エ 質疑応答

【質問】 Google フォームでのアンケートについて、コンソーシアム委員はどう取り組めば良いか。

(回答) 今年度、Google フォームでのアンケートを実施している。QRコードを読み取り、回答を送信していただきたい。コロナで活動が制限される中、本校の教育活動にどのような形でご協力いただけるか、ぜひ沢山ご記入いただきたい。このアンケートを基に、3年生の生徒あい³委員会が会議を行う予定となっている。

【質問】 3年生は今年度「田布施とつくる」というテーマで、センサーを活用した田んぼの水位管理について研究を行いたいと思っている。実際に、田んぼをお持ちの方を紹介していただくことや、研究へのアドバイスがあればお聞きしたい。

(回答) 田布施にある3・4つの法人でよければ、紹介を行うことができる。

【質問】 SDGsについて田布施町では何か取り組みがあるのか。

(回答) 田布施町としても取り組んでいるが、SDGs自体が大きな目標なので、いかに身近なものとするか、そして、どのような課題があるのか整理を行っている。

【意見】 農林水産省としても2050年に向けて、5～6月中にまとめができる。可能かどうかはわからないが、現在の農地の4分の1を有機農業にするなどの目標を掲げる動きがある。農林水産省としての情報を知りたい場合は、声をかけて欲しい。

【質問】 生徒が、田布施町サイクリングマップを作っている。生徒には、誰をターゲットにするのか、どういう目的で来てもらうのか、というのを考えるようにと伝えている。しかし、生徒が考えたものがこれで良いのかわからない、というのが本音である。今、サイクリングマップは観光協会の方にご協力いただいているが、今後、田布施町や、企業、地域の方とどのように協働していけばいいか、ご意見をいただきたい。

(回答) 複数課をまたぐものもあるので、担当課へ連絡し、進捗などは私が確認し先生に担当者のご案内をさせていただく。という形でやっていきたい。

(2) 第2回学校運営協議会・コンソーシアムの会議録から

ア 生徒あい³委員会の活動について

○ 第1分科会

- ・ 活動内容、目指すもの、流れの説明が丁寧でわかりやすかった。
- ・ 生徒の目の輝きがやる気が感じられた。

○ 第2分科会

- ・ 社会人のような活動をされていると感じた。活動も、目標をしっかりと持っている。
- ・ 地域の方と関わる中で、課題や目標が見つかって取り組んでいると感心した。
- ・ 授業参観については、クロスモーダルなど、食品の味が見た目と香りで異なっているとは初めて知って驚いた。

○ 第3分科会

- ・ 3グループがそれぞれ別のため池を調査するという事だが、3つのため池の共通する部分を比較してはどうだろうか。Aさんのグループは、危険だという部分に着目したけれど、他の人は違う部分に目を向けているかもしれない。それぞれが同じ基準でみた場合の視点もあればよい。
- ・ ため池が、地域でどんな役割をしているかといったことも聞いたりするとよい。
- ・ 防災公園の設計については、みんな、遊具を沢山取り入れていたのがよかった。防災時に使える遊具という視点があればよい。

○ 第4分科会

- ・ 様々な課題を設定しており、とてもおもしろい。
- ・ 地域連携の意欲があり、それぞれの体験が確実に身につけている。シニア世代との関わりもしたいという意欲もある。

イ 成果発表会及びまとめについて

○ 第1分科会

- ・ 3年間のほとんどがコロナ禍で大変だったが、これからもこの状況が続くと思われる。次の後輩へ引き継ぐことや、この状況の中で学んだことを生かしてほしい。

- ・ 生徒のコミュニケーション能力の向上を実感させてもらった。
- 第2分科会
 - ・ 地域にも出ている活動だと思うので、3年間学んだことをしっかりと記録していくことで、新たな発見につながると思う。
- 第3分科会
 - ・ 工夫して高台を作った生徒さんもいた。かまどなど、みんなそれなりの視点が少しずつ入っている。
 - ・ 太陽光発電という視点がとてもいい。北海道で数年前にあったブラックアウトで、やはり電気が必要だという流れがある。
 - ・ 山口は災害が少ないから、どうしても危機意識が低くなってしまう。防災機能的には、まだ十分ではない気がする。防災の部分にもう少し力を入れるとさらに良くなる。
- 第4分科会
 - ・ 動画の内容は大変よくできていて、3年間の活動をうまくまとめられている。活動が生徒たちに貴重な体験・学習の場となっていることが、発表からうかがえた。

ウ 次年度以降の活動について

- 第1分科会
 - ・ この活動を長く続けるためには、楽しかった内容を伝えていくことが大切。そうすれば自然に地域への愛着もわいてくると思う。
- 第2分科会
 - ・ 卒業してからも、後輩たちに関わってほしい。また、在学中にこうしたほうが良いなどのアドバイスがあれば、後輩たちに伝えていってほしい。
 - ・ 意識しながら社会生活を送ることで、様々なことが見えてくると思う。
- 第3分科会
 - ・ 難しいかもしれないが、ため池の現状、どういう構造になっているかを整理する。水の流域などを、数字で整理をする。
 - ・ ため池にはいろいろな構造・役割があるが、維持方法などを地域にアドバイスすることによって、地域貢献にもつながっていく。
- 第4分科会
 - ・ 文科省の指定は終了するが、「あい³活動」を定着させていく方法を考えてほしい。
 - ・ ステージ4、「I（アイ）ターン」について、是非取組を開始してほしい。

エ 分科会総括（陣内先生からの助言）

- ・ 生徒が実行するという段階までできているが、その先の、生徒が目標を決め、計画をして、自分たちで動くというPDCAサイクルを生徒が回せるようになるといい。
- ・ 生徒が活躍できる場が増えて、生徒の学びが深まっている。今年で3年目

だが、切れさせずに積み重ねていくことが大切だと思う。

- ・ 2年半前のロジックモデルは、達成してきたといえる。
- ・ 農業高校と自動車学校の違いは、路上教習（実際に社会にでること）のみ。生徒がハンドルを握っているということが大事。生徒がハンドルを握るのは不安だというのが、その不安の中身を見てみると、生徒に委ねているから不安。口出しを我慢しつつも寄り添っているから不安。生徒の活動が先生方の既知の世界から飛び出そうとしているから不安だと思っている。つまり、不安でいい、ということ。
- ・ 欠けている部分を補おうとするよりも、今からの社会に求められるのは、別のものではないだろうか。学校の5段階評価で終わらせず、その生徒の持っている個性を発揮させていく。チームワークで解決という方法もある。
- ・ 自己分析していくと、自己肯定感が下がりがち。例えば一人に対して5人が列になって並び、次々と褒めていく“褒め褒めゲーム”を活動の中で取り入れてみるとよい。
- ・ 失敗しても、成功してもバカにされない雰囲気づくりをしていく。
- ・ 授業内容も改善したいところだが、もしうまくいっているなら、変えない。一度やってうまくいったなら、もう一度やる。うまくいっていないなら、なんでもいから違うことをする。他の先生がやってうまくいった方法をまねする。
- ・ この地域の良さに気づく。ないものねだりではなく、今ある価値に気づく。最先端のものばかりが価値あるものではない。例えば、雰囲気のいいところで食事をしたいとなると、LEDや蛍光灯の光ではなく、キャンドルやランプのほうがよいのではないか。ストーブやエアコンのほうが便利だけど、囲炉裏や暖炉を囲むのもいい。このように、体験を伴うことに価値がある。
- ・ 子どもたちを地域に残すと言うが、そうではなく、子どもたちに選ばれる地域となる。地域の魅力を大人伝えて、子ども達が戻って来たいと思えるような体験をさせる。
- ・ 高度な専門学習、探求学習のベースには、しっかりとした生徒指導がある。
- ・ 行動を起こしさえすれば、夢は拓いていく。

(3) 第3回 学校運営協議会・コンソーシアムの会議録から

ア 3年間の取組についての意見・感想

- ・ あい³活動を行うことで、伝える力が上がっているので活動を続けていきたい。
- ・ 今後も農工の取組と連携し、地域の農業を知っていただき、就農につながるような形の取組を続けていきたい。

イ 質疑応答

【質問】 3年間という計画であったが、今後の計画について。

【回答】 文部科学省の指定事業としては3年間で終わりとなるが、キャリア教育

として非常に有効な教育活動だと思っている。形がどうなるかはわからないが、田布施農工のキャリア教育のシステムとして、あい³活動を継続していきたい。

【意見】 農林水産省の出先機関としてできること、できないことあると思うが、生徒たちがどういったことがしてみたいとかあれば教えていただきたい。興味のあるものを経験させたいし、刺激になるような連携を続けていきたい。

【質問】 地域内への就職、就学の割合は増えているのか減っているのか。傾向を教えていただきたい。

(回答) 県内就職に関しては、昨年度 84%から今年度 90%と、増加傾向である。就学に関しては、県内に学校が少ないこともあり、極端に伸びているという感じはしない。今まで、高校卒業してすぐに農業関係への就職が難しい状況にあったが、今年度は農業法人に 2 名就職することができた。この 3 年間の大きな成果だと思う。

ウ 講評（陳内先生から）

- ・ 育成すべき人材としては、将来の地域産業の担い手となるために幅広い「知識・技術」を身に付けた人材。 Society5.0 時代を迎える際に、未知の状況にも対応できる創造力を持った人材。 学びを人生や社会に生かし、多様な集団の中で世代を超えて協働できる人材。
- ・ 事業本来の目的としては高校と市町村、高等教育機関、産業界等が協働してコンソーシアムを構築し、高校における地域課題の解決等の探究的な学びを通して、未来を切り拓くために必要な資質・能力を身に付けるとともに、地域への課題意識や貢献意識をもち、将来、地域で地域ならではの新しい価値を創造し、新たな時代を地域から分厚く支えることのできる人材の育成を図るとする。
- ・ 事業のねらい（地域協働推進校のスキーム）は、趣旨達成に必要な高校の地域人材育成に関する教育課程等の改善に資する。実証的資料を得る。地域人材育成に関する教育課程等に関する研究開発および地域との協働による高校を地域協働推進校に指定する。
- ・ プロフェッショナル型については専門的な知識・技術を身に付け地域を支える専門的職業人を育成するため、地域の産業界等と連携・協働しながら地域課題の解決等に向けた探究的な学びを専門教科・科目を含めた各教科・科目等の中に位置付け、体系的・系統的に学習するためのカリキュラム開発等を実施する。
- ・ 対話については「フッサールとレヴィナスとの邂逅」を例に、どれほど正しく問いを理解し、どれほど十分な回答を準備していたとしても、「想定問答集」を読み上げることは対話ではない。また、「対話」とは対面している相手の問いかけが、本質的に未知のものであり、それ以外の誰によって発されることのない、絶対的に代替不可能なものであるということを知覚する事況のことである。求められているのは、「正しい回答で応じ

る」ことではなく、今、まっすぐにこちらを向いて、問いを発して来る人間の「ユニークさ」を承認することなので、その問いが一見ありふれたもののだとしても、その答えを、あなたなりに掴みつつあるのではないと、ユニークさを引き出し承認する。

- ・ 地域からの連携を求める声の高まりと生徒の貢献する思いについては、コミュニケーションの意味がある。「メッセージの伝達」と「自らを相手に曝すこと」である。挨拶の「今日はいい天気ですね。どちらへ」と、挨拶を送った側は、自分が相手を気に掛けていることを相手に曝す。声を掛けられた側は、その挨拶を無視することもできる。無視されて傷つくかもしれない。でも、そうなるかもしれないとしても、返してくれるはずと信じて声を掛ける。生徒が探究活動によって、地域の産業や住む人に歩み寄って行動をした。それに、地域の方は愛情を以て応えてくれたのではないか。「生徒が、自ら主体として地域とコミュニケーションを取り始めたこと」それが、効いていると感じる。
- ・ 教育目標の指標については、〇〇力や〇〇性、〇〇的態度など、抽象度の極めて高い言葉が謳われる。例えば思考力、創造性、協働的態度等。これらの言葉は抽象的なので、書き下して定義づけし、ルーブリックに落とし込んでその水準を引くようなことをしないと使えない。主体性や学びに向かう力は、「眼差し」に宿る。主体性を育む教育かどうかは、生徒にとって「やりがい」があるか。協働性は、「寄り添い」方に現れる。思考力・判断力を発揮して考えている様子は、「たたずまい」に。態度や姿勢を表す大和言葉に置き換えて考えれば、教育活動として「何をしたか」ではなく、「生徒の変容」そのものに、教師の目がいくのではないか。
- ・ 地元就職を希望しても、生徒が働きたいと思える仕事はあるのか。生徒が卒業後行きたいと思える学校が地域にあるのか。この事業で育ててきた力を発揮できる舞台が、田布施地域にあるのか。環境を整えることが大人としての役割である。
- ・ 「起業・プロジェクト」炭火・火起こしのメタファーについて、大きな炭は燃えない。火起こし時には縦方向に積む。1本の炭では火は起こらない。もし火が起きても燃焼を続けられない。

3 田布施あい³プロジェクト成果報告会

- 1年生「ポスターセッション」
- 2年生「成果発表」
- 3年生「課題研究発表」
 - ・ 生物生産科「農業を通して地域と交流」
 - ・ 食品科学科「ジビエ肉を利用した防災食」
 - ・ 都市緑地科「緑のまちづくり、防災啓発活動」
 - ・ 機械制御科「ベーシックものづくり」
 - ・ 生徒あい³委員会 4学科のまとめ

基調講演より

- ・ 地域の課題をしっかりと捉えている。自分の足で出かけた、自分の目で見た、I C T関係の検索（RESASの使用）が、しっかりとしていたことがよかった。
- ・ 研究・探究のしかた。科学的アプローチ、文理融合、学科を超えた学びがあった。
- ・ 地域の方から愛されている。これは、何かをしたから愛されているのだろうか。そうではなく、実際に足を運んでくれ、地域のことに興味を持ってくれたからではないか。
- ・ 好きや得意が取組に活かされていた。
- ・ 外部大会への参加は、自分に足りないことへの気づきとなる。また、チャレンジしよう、という意欲が身についたのではないだろうか。この波紋が地域に広がっていく。
- ・ パワーポイントのスライドは、全て型にはまっておらずよかった。
- ・ 質問の機会が設けられていなかったのが残念に思う。
- ・ 今日の発表は氷山の一角であり、水面下での学びがある。
- ・ 教室を超えた学び、日常の学びが大切。学びの場では、失敗しても大丈夫、という心理的安全性が大切。本来、失敗は楽しいことである。
- ・ 他の人と自分の意見が違くと沈黙してしまいがち。しかし、少数派の意見を封じ込めることは、時に破滅的な結果をもたらすことがある。
- ・ たたら製鉄に例えると、砂鉄は生徒、木炭は教材、ふいごは努力と言い換えられる。これらの条件を揃えうるかどうかで「鐵」にも「鉄」にもなる。
- ・ 炭は1本では火がおこらない。おきたとしても、燃え続けることができない。複数の炭が燃焼面を向け合い、お互いを暖め合うことで燃え続けることができるが、これは人にも同じことが言える。ネットワークを駆使し、暖め合える人を見つけよう。
- ・ 心理的安全をくれたのは地域の方である。
- ・ 生徒指導がベースにあり、その上に教科指導。
- ・ 意識して外集団にライバルを作ると、内集団がまとまる。



第6章 各種資料

1 アンケート一覧

(1) 生徒事前アンケート

2000年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 生徒対象 事前アンケート

選択式の回答は、該当箇所のマーク○を塗りつぶして答えてください。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

○: 空白マーク ●: 正しいぬりつぶし /: 不十分なぬりつぶし

地域への関心や普段の取組、今後の目標等について、以下の質問に答えてください。


(1) 質問 [○年()科 氏名()]




		評 価			
		そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
1	田布施町の歴史や文化を知っている。	○	○	○	○
2	田布施町の歴史や文化に関心がある。	○	○	○	○
3	田布施町の産業（農業や工業）の特色を知っている。	○	○	○	○
4	田布施町の産業（農業や工業）に興味がある。	○	○	○	○
5	地域の課題について考えたことがある。	○	○	○	○
6	地域に関する様々な数値をもとに現状を分析することができる。	○	○	○	○
7	地域の防災に興味がある。	○	○	○	○
8	将来、地域の発展に貢献する活動がしたい。	○	○	○	○
9	地域の人と協力して、様々な活動をしたい。	○	○	○	○
10	地元での就職（進学した後も）を考えている。	○	○	○	○
11	授業や実習に積極的に取り組んでいる。	○	○	○	○
12	いろいろな情報をまとめ、自分の考えを示すことができる。	○	○	○	○
13	自分の考えを相手に正確に伝えることができる。	○	○	○	○
14	日々学んでいる知識や技術が知的財産であること（付加価値）を理解している。	○	○	○	○
15	学科の専門性を生かした仕事に就きたいと考えている。	○	○	○	○

(2) 生徒事後アンケート

2000年度 地域との協働による高等学校教育改革推進事業 生徒対象 事後アンケート

本日の授業をととして、学んだこと、感じたことについて、以下の質問に教えてください。

選択式の回答は、該当箇所のマーク  を塗りつぶして教えてください。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

 空白マーク  正しいぬりつぶし  不十分なぬりつぶし

(1) 将来の地域産業の担い手となるために、幅広い「知識・技能」を身に付けた人材

		評価			
		そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
1	この取組は地域の魅力の向上や発信に繋がった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	あなたはこの取組で地域への愛着は深まった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	この取組は何のために行っていたか分かる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	この取組で自分に力が付いたことが実感できる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(2) Society5.0時代を迎える時代に、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を習得し、産業の変化に柔軟に対応できる創造力を持った人材

		評価			
		そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
1	文章や情報を正確に読み解き、対話する力がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	科学的に思考・吟味し活用する力がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	価値を見つけ生み出す感性と力(好奇心・探求力)がある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	自ら学びに向かう態度を身につけている。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5	この取組は地域産業・地域社会の活力に繋がる。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6	この取組を通じて地域を進路に選ぶことを考えた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(3) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」を身に付け、多様な集団の中、世代を超えて協働できる人材できる人材 産業の変化に柔軟に対応できる創造力を持った人材

		評価			
		そう思う	だいたいそう思う	あまり思わない	思わない
1	この取組は地域の魅力の向上や発信につながった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2	地域の課題を解決する知識・技術が身についた。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3	専門の仕事への興味が高まった。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4	地域社会と将来の仕事に関わりがある。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

(4) 本日の授業を通じて、感じたこと、考えたことを記入しなさい。





(3) 学校評価アンケート（保護者）

20〇〇年度 学校評価アンケート（保護者用） 山口県立田布施農工高等学校

平素から本校教育の推進に御理解と御協力をいただきありがとうございます。

さて、このアンケートは、本校の教育活動をより充実したものにするためのものです。保護者の皆様が平素どのように感じておられるかを御回答ください。判断がつかない（よくわからない）場合は「わからない」を選んでください。

回答後はこの用紙を無記名で封筒に入れていただき、〇月〇日（〇）までにお子様を通じて担任に御提出いただきますようお願いいたします。

選択式の回答は、該当箇所のマーク  を塗りつぶして答えてください。
 空白マーク  正しいぬりつぶし  不十分なぬりつぶし

(1) 質問[学科()科 学年()年]

		評 価				
		そう思う	だいたい そう思う	あまり思わない	思わない	わからない
1	学校には地域連携の取組などすぐれた特色があり、その特色が日々の教育活動に活かされている。					
2	子どもは本校で学ぶことによる充実感や満足感を感じている。					
3	学校行事やPTA活動は保護者とよく連携が図られている。					
4	学校行事は生徒が充実感を持つよう工夫されている。					
5	学校は生徒の生活面での指導において、家庭との連携は適切に行われている。					
6	翌日の日程や行事の予定はあらかじめわかっている。					
7	子どもは学校の規則を守っている。					
8	子どもはいじめのない学校生活を送っている。					
9	学校は進路に関する適切な情報を提供している。					
10	生徒一人ひとりに対して継続的な進路指導を行っている。					
11	生徒会・農業クラブ・家庭クラブ・工業クラブ等の活動が活発に行われている。					
12	部活動は充実した活動をしている。					
13	学校では健康・安全に対して適切な配慮がなされている。					
14	学校では災害等緊急時の対処がきちんとされている。					

2 ルーブリック評価様式

あい³プロジェクト ルーブリック自己評価表

1～6の質問（6問）と、それぞれの科の質問（1問）に答えてください。4択になっており、4が卒業までに目指すべき姿です。各授業の目標を意識しながら、現時点の自分の力を4択の中から選択してください。

1	創造力	4 3に加え、自らのアイデアもとに実際に作ることができる 3 2に加え、そのアイデアの実践方法が説明できる 2 普段から自分の考えを持っており、アイデアをメモすることができる 1 考えたり作ったりメモに残したりすることはできていない
2	アイデアの 活用力	4 3に加え、自らが考えたアイデアを権利化し利用して、ビジネスや地域活性化の手立てを計画することができる 3 2に加え、様々なコンテストや発表により、アイデアを財産として登録・外部へ発信することができる 2 自分のアイデアを持っており、利用方法が分かっている 1 自分のアイデアを利用する方法が分かっていない
3	実践力	4 3に加え、外部発信や価値ある製品やサービスを生み出すことができる 3 2に加え、地域の実情に合わせて、工夫をしながら行動（製作等）を取ることができる 2 指示を理解し、行動（製作等）することができる 1 口頭や文章での、指示を理解することができていない
4	コミュニケーション力	4 3に加え、問題解決のためのチームを作ることができ、リーダーシップをとって行動できる 3 2に加え、自らの意見を述べることができる 2 人の意見を聞き、理解することができる 1 人の意見を聞きくことや、理解することができていない
5	地域との協 働力	4 3に加え、地域の人と協力をしながら改善を図る取り組みができる 3 2に加え、地域のことに興味があり、良い点や問題点を具体的に挙げるができる 2 自治体や地域の団体などの活動に積極的に参加することができる 1 地域のことに興味が無く、あまり分かっていない
6	発信力	4 3に加え、不特定多数の人に、協力を得ることができる 3 2に加え、公報や独自の新聞やSNSを利用して多くの人に発信し、伝えることができる 2 自らの考えや行動を発表会により数人の人に伝えることができる 1 自らの考えや行動を人に伝えることができていない

各科の質問

A	栽培・飼育力	<p>4 3に加え、自ら課題を見つけ出しその解決に向けて的確に判断し取り組むことができる</p> <p>3 2に加え、基礎的な技術を身につけ、その技術を活用することができる</p> <p>2 栽培や動植物の飼育について、ある程度内容を理解し意欲をもって取り組むことができる</p> <p>1 栽培や動植物の飼育について、意欲がなくあまり関心がもてていない</p>
F	特産品開発	<p>4 3に加え、そのレシピを外部発信することができる</p> <p>3 田布施町の特産品を利用したレシピ開発ができる</p> <p>2 田布施町の特産品について説明ができる</p> <p>1 田布施町の特産品が何かわかっていない</p>
E	防災力	<p>4 3に加え、災害時に活動する準備もできる</p> <p>3 2に加え、危険個所を説明でき、避難経路も確認できる</p> <p>2 自分の住んでいる地域のハザードマップを見たことがあり、避難場所も確認済である</p> <p>1 自分の住んでいる地域が災害に対して安全かどうか分かっていない</p>
M	知財観察力	<p>4 3に加え、自らの考えた物の新規性や進歩性を文章で説明できている</p> <p>3 知財についてよく理解し、商品に潜む知財を見つけ出し、J-PlatPatで探すことができている</p> <p>2 知的財産権についてある程度理解し、J-PlatPat使用方法を説明できている</p> <p>1 知的財産権とは何か分かっていない</p>

3 大会（発表）参加（入賞）一覧

（1）令和元年度 田布施農工高校受賞歴等一覧

1 受賞歴

NO	主催	大会名	賞の種類	部門
1	全国農業協同組合中央会	全国高校生農業アクション大賞	準大賞	
2	日本農業教育学会	農業高等学校意見文全国コンクール	審査員特別賞	
3	徳山大学	高校生ビジネスコンテスト	入賞	高校生部門
4	出光昭和シェル	環境フォト・コンテスト	学校団体優良賞	
5	中国四国農政局	ディスカバー農山漁村の宝	県奨励賞	コミュニティ部門
6	(独)工業所有権情報・研修館	パテントコンテスト	優秀賞	
7	日本学校農業クラブ中国ブロック連盟	日本学校農業クラブ中国ブロック連盟大会	優秀賞	プロジェクト発表Ⅱ類
8	日本学校農業クラブ中国ブロック連盟	日本学校農業クラブ中国ブロック連盟大会	最優秀賞	意見発表Ⅱ類
9	日本学校農業クラブ中国ブロック連盟	日本学校農業クラブ中国ブロック連盟大会	優秀賞	意見発表Ⅲ類
10	日本学校農業クラブ連盟	日本学校農業クラブ連盟	優秀賞	意見発表Ⅱ類
11	日本学校農業クラブ連盟	日本学校農業クラブ連盟	優秀賞	農業鑑定（園芸）
12	日本学校農業クラブ連盟	日本学校農業クラブ連盟	優秀賞	農業鑑定（食品）

2 発表

NO	主催	大会名	場所	発表者
1	山口県立田布施農工高等学校	たぶせレポート中間発表会	田布施農工高校	1学年
2	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	山口県保健センター	生物生産科・環境土木科・食品科学科
3	学校農業クラブ連盟中国ブロック連盟	学校農業クラブ連盟中国ブロック連盟大会	庄原市市民会館	食品科学科
4	山口県産業教育振興会	産業教育振興会	山口県庁	食品科学科
5	山口県教育庁	やまぐち地域連携教育の集い	光市民ホール	食品科学科
6	一般社団法人山口発明協会	やまぐち産業維新展	キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター	機械制御科

(2) 令和2年度 田布施農工高校受賞歴等一覧

1 受賞歴

NO	主催	大会名	賞の種類	部門
1	毎日新聞	第48回 毎日農業記録賞	優良賞	高校生部門
2	徳山大学	徳山ビジネスプランコンテスト2020	優秀賞(2)	-
3	徳山大学	徳山ビジネスプランコンテスト2020	奨励賞	-
4	香川短期大学	高校生お弁当の日甲子園	佳作	-
5	山口大学	全国知財創造実践甲子園2020	優秀賞(2)	事前研修会企画の部
6	山口大学	全国知財創造実践甲子園2020	奨励賞(5)	事前研修会企画の部
7	山口大学	全国知財創造実践甲子園2020	奨励賞	本大会自由課題の部
8	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	プロジェクト発表Ⅰ類
9	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	プロジェクト発表Ⅱ類
10	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	プロジェクト発表Ⅲ類
11	富士ソフト㈱・全国工業高等学校長協会	相撲ロボット製作コンテスト	最優秀賞	
12	富士ソフト㈱・全国工業高等学校長協会	相撲ロボット製作コンテスト	アイデア賞	

2 発表

NO	主催	大会名	場所	発表者
1	山口県立田布施農工高等学校	令和2年度たぶせあいキュービック成果発表会	田布施農工高校	1・2学年
2	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	山口農業高等学校(録画審査)	生物生産科・環境土木科・食品科学科
3	山口県ひとづくり財団	やまぐち若者 MY PROJECT 実践発表会	セミナーパーク	食品科学科・都市緑地科
4	マイプロジェクト中四国実行委員会	全国高校生マイプロジェクトアワード中四国Summit	田布施農工高校(オンライン審査)	食品科学科

(3) 令和3年度 田布施農工高校受賞歴等一覧

1 受賞歴

NO	主催	大会名	賞の種類	部門
1	文部科学省	第14回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣賞		学校の部
2	山口大学 知的財産センター	全国知財創造実践甲子園最終発表会	審査員特別賞	本大会自由課題の部
3	山口県工業教育研究会	第16回山口県工業関係高等学校溶接競技大会	優良賞	
4	日本学校農業クラブ連盟	日本学校農業クラブ連盟全国大会令和3年度兵庫大会	優秀賞	農業鑑定(園芸)
5	一般財団法人工業所有権協カセンター	特許検索競技大会 スチューデントコース		
6	一般社団法人山口県建設業協会	建設業イメージアップポスター	佳作	
7	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	意見発表I類
8	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	意見発表III類
9	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	農業情報処理
10	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	平板測量
11	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	最優秀賞	家畜審査(乳用牛)
12	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	家畜審査(乳用牛)
13	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会	優秀賞	家畜審査(肉用牛)
14	マイプロジェクト事務局	MY PROJECT AWARD 西日本Summit	地域貢献賞	

2 発表

NO	主催	大会名	場所	発表者
1	山口県立田布施農工高等学校	たぶせレポート中間発表会	田布施農工高校	1学年
2	山口県立田布施農工高等学校	学習成果発表会	田布施農工高校	全学年
3	山口県立田布施農工高等学校	コンソーシアム	田布施農工高校	全学年
4	山口県学校農業クラブ連盟	山口県学校農業クラブ連盟大会		生物生産科・食品科学科・都市緑地科
5	一般社団法人地域活性化センター山口県教育委員会	コミュニティ・スクールを核とした地方創生	オンライン	生徒あい ³ 実行委員
6	全国産業教育フェア埼玉大会実行委員会	全国産業教育フェア埼玉大会	オンライン	生徒あい ³ 実行委員
7	島スクエア起業教育研究センター	島スクエアプラス起業家育成講座	柳井市やないろ	食品科学科
8	周防大島町石小田自治会	ジビエを活用した防災食作り講習会	田布施農工高等学校大島分校閉校校舎	食品科学科

4 教育課程表

(1) 平成31年度入学生

平成31年度
山口県立田布施農工高等学校

教育課程編成上の基本的事項		本校又は分校の別		全日制、定時制又は通信制の別		生徒数			
高等学校の教育目標をもとにして、生物生産科は農業経営者や技術者の養成を、食品科学科、都市緑地科および機械制御科はそれぞれの中堅技術者の養成を目的とする。従って、各学科とも一般教養並びに専門技術を習得し得るような教育課程の編成をなし、専門科目については実験実習が効果的に実施できるように配慮してある。第2・3学年においては生徒の適性、進路に応じたコース制及び学科の枠を超えた選択科目を設定する。		本校		全日制		学 科	男	女	計
		分校の名称				生物生産科	15	20	35
						食品科学科	5	30	35
						都市緑地科	25	10	35
						機械制御科	30	5	35
						計	75	65	140

教科・科目等	学年	生物生産科				食品科学科				都市緑地科				機械制御科			
		1		2		1		2		1		2		1		2	
		1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2		
各学科に共通する各教科・科目	国語総合	3			3				3				3				3
	国語表現		2		(2)				(2)				(2)				(2)
各教科・科目	現代文B		2		2				2				2				2
	世界史A		2		2				2				2				2
公民	現代社会			3	3			3	3			3	3			3	3
	数学I	3			3	3			3	3			3	3			3
理科	数学II		2		2			2	2			2	2			2	2
	数学A		2		(2)			(2)	(2)			(2)	(2)			(2)	(2)
芸術	数学B			2	(2)			2	(2)			2	(2)			2	(2)
	科学と人間生活			2	2			2	2			2	2			2	2
家庭	物理基礎											2	2			2	2
	化学基礎	2		2	2(2)	2		2	2(2)	2		2	2(2)	2		2	2(2)
情報	生物基礎		2	2	2(2)			2	2(2)			2	2(2)			2	2(2)
	体育	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7
音楽	保健	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2
	音楽I		2		(2)				(2)				(2)				(2)
美術	美術I		2		(2)				(2)				(2)				(2)
	書道I		2		(2)				(2)				(2)				(2)
外国語	コミュニケーション英語I	3	2		3(2)	3	2		3(2)	3	2		3(2)	3	2		3(2)
	英語表現I			2	2			2	2			2	2			2	2
家庭	英語会話		2		2			2	2			2	2			2	2
	家庭基礎	2			2	2			2	2			2	2			2
小計	社会と情報	*				*				*				*			
	小計	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)
農業	農業と環境	2			2	2			2	2			2				2
	課題研究			3	3			3	3			3	3				3
工業	総合実習	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6				6
	農業情報処理	2	2		4	2	2		4	2	2		4				4
家庭	作物	2			2				2				2				2
	野菜		2	2	4												
農業	果樹		2	2	4												
	草花		2	2	4												
工業	畜産		2	2	4												
	農業経営		2		(2)									2			(2)
農業	農業機械		2	2	4												
	食品製造					2	2		4	2							
工業	食品化学					2	2		4	2							
	微生物利用					2	2		4	2							
農業	植物バイオテクノロジー		2		2												
	農業経済			2	(2)							2	(2)			2	(2)
工業	食品流通					2	2		(4)(2)					2	2		(4)(2)
	農業土木設計									2	2		4				
農業	農業土木施工									2	2		(4)(2)	2			(2)
	水循環			2	(2)			2	(2)			2	(2)			2	(2)
工業	造園技術										2	2			2	2	
	環境緑化材料																
農業	測量									4	2		6				
	グリーンライフ			2	(2)			2	(2)			2	(2)			2	(2)
農業	※園芸デザイン		2	2	4												
	※酒類醸造						2	2	4								
工業	※都市緑地デザイン										2	2	4				
	※自然災害と都市防災										2	2	4				
工業	工業技術基礎												4				4
	課題研究															3	3
工業	機械実習													4	4		8
	機械製図													2	2	2	6
工業	工業数理基礎												2				2
	情報技術基礎													2			2
工業	生産システム技術		2		(2)		2		(2)		2		(2)				(2)
	機械工作													2			2
工業	機械設計													2	2		4
	原動機		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)
工業	電子機械		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)
	フードデザイン						4	2	6								
工業	栄養																
	小計	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)
特別活動	総合的な探究の時間(礎・産業基礎)	3			3	3			3	3			3	3			3
	自立活動		(1)	(1)	(2)		(1)	(1)	(2)		(1)	(1)	(2)		(1)	(1)	(2)
特別活動	単位数合計	29	29(1)	29(1)	87(2)	29	29(1)	29(1)	87(2)	29	29(1)	29(1)	87(2)	29	29(1)	29(1)	87(2)
	ホームルームの週時数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
特別活動	指導計画の概要	<p>ホームルーム活動 学科の特性に応じた進路指導を1年次よりホームルーム単位で行う。また、ホームルームや学年単位で豊かな人間関係の育成を目指すとともに、社会の一員としての望ましい資質や能力、態度を育てる。</p> <p>生徒会はクラスマッチ・交流祭等を、農業クラブ・工業クラブ・家庭クラブは農工祭等を企画運営することで、学校生活の充実を図るとともに役員のみならず生徒一人ひとりの自主的、実践的な態度を高め、人格の形成を目指す。</p> <p>田植えとその後の泥落としを兼ねた「さのぼり」、収穫を感謝する「収穫祝」、動植物感謝祭など専門高校ならではの学校行事を実施し、日本の伝統的文化を理解させ、学校生活をより充実したものにする。</p>															

(注)※は学校設定科目である。

(注)「社会と情報」2単位を、生物生産科と食品科学科は1年次の「農業情報処理」、都市緑地科と機械制御科は2年次の「農業情報処理」及び「情報技術基礎」で代替する。

(注)選択科目については、2年次の左のはしごをA群、3年次の左のはしごをI群、同右のはしごをウ群とし、各群から1科目を選択することとする。

(注)「自立活動」は学校教育法施行規則第140条に基づき設定する障害に応じた特別指導であり、1~3年次において最大3単位の履修が可能である。

(2) 令和2年度入学生

山口県立田布施農工高等学校
令和2年度

教育課程編成上の基本的事項		本校又は分校の別 本校 分校の名称	全日制、定時制 又は通信制の別 全日制	生徒数			
高等学校の教育目標をもとにして、生物生産科は農業経営者や技術者の養成を、食品科学科、都市緑地科および機械制御科はそれぞれの中堅技術者の養成を目的とする。従って、各学科とも一般教養並びに専門技術を習得し得るような教育課程の編成をなし、専門科目については実験実習が効果的に実施できるように配慮してある。 第2・3学年においては生徒の適性、進路に応じたコース制及び学科の枠を超えた選択科目を設定する。				学 科	男	女	計
				生物生産科	10	20	30
				食品科学科	5	25	30
				都市緑地科	20	10	30
				機械制御科	25	5	30
				計	60	60	120

教科・科目等	学年	生物生産科				食品科学科				都市緑地科				機械制御科				
		1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	
		生産技術	施設園芸	生産技術	施設園芸	食品科学	食品文化	食品科学	食品文化									
各学科に共通する各教科・科目	国語	国語総合	3			3	3			3	3			3	3			3
		国語表現		2	(2)		2	(2)		2	2		2	(2)		2	(2)	
		現代文B	2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4	
		世界史A		2		2	2			2	2			2	2			2
		地理A	2			2	2			2	2			2	2			2
		公民			3	3			3	3			3	3			3	3
		数学	3			3	3			3	3			3	3			3
		数学Ⅰ																
		数学Ⅱ		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4
		数学A		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)
		数学B			2	(2)			2	(2)			2	(2)			2	(2)
		理科			2	2			2	2			2	2			2	2
		科学と人間生活				2	2			2	2			2	2			2
		物理基礎											2			2		2
		化学基礎	2		2	2(2)	2		2	2(2)	2		2	2(2)	2		2	2(2)
		生物基礎		2	2	2(2)		2	2	2(2)		2	2	2(2)		2	2	2(2)
		体育	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7
		保健	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2
		音楽Ⅰ		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)
		美術Ⅰ		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)
		書道Ⅰ		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)
		外国語	3	2		3(2)	3	2		3(2)	3	2		3(2)	3	2		3(2)
		英語表現Ⅰ			2	2			2	2			2	2			2	2
		英語会話		2		2		2		2		2		2		2		2
		家庭	2			2	2			2	2			2	2			2
		情報	*			*				*			*					*
		小 計	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)
主として専門学科において開設される各教科・科目	農業	農業と環境	2			2	2			2	2			2				2
		課題研究			3	3			3	3			3	3				3
		総合実習	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6				6
		農業情報処理	2	2		4	2	2		4	2	2		4				4
		作物	2			2				2				2				2
		野菜		2		2	2	4										
		果樹	2		2	4												
		草花		2		2		4										
		畜産	2		2	4												
		農業経営	2			(2)								2				(2)
		農業機械	2	2	2	4												
		食品製造					2	2	2	4	4							
		食品化学					2	2	2	4	2							
		微生物利用					2		2									
		植物バイオテクノロジー		2		2												
		農業経済			2	(2)							2	(2)			2	(2)
		食品流通					2	2	(4)(2)				2	(2)			2	(2)
		農業土木設計									2	2	4					
		農業土木施工									2	2	(4)(2)			2		(2)
		水循環																
		造園技術			2	(2)		2	(2)				2	(2)			2	(2)
		環境緑化材料										2	2				2	2
		測量									4	2		6				6
		グリーンライフ			2	(2)		2	(2)				2	(2)			2	(2)
		※ 園芸デザイン		2	2	4												
		※ 酒類醸造					2	2	4									
		※ 都市緑地デザイン										2	2	4				
		※ 自然災害と都市防災										2	2	4				
		工業													4			4
		工業技術基礎																
		課題研究															3	3
		機械実習														4	4	8
		機械製図													2	2	2	6
		工業数理基礎												2				2
		情報技術基礎													2			2
		生産システム技術	2			(2)	2		(2)	2			(2)	2			(2)	(2)
		機械工作													2			2
		機械設計													2	2	4	4
		原動機		2		(2)		2	(2)			2	(2)		2	2	(2)	(2)
		電子機械		2		(2)		2	(2)			2	(2)		2	2	(2)	(2)
		家庭						2	2	4								
		フードデザイン						2	2	4								
		栄養						2	2	4								
		小 計	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)
		総合的な探究の時間(礎・産業基礎)	3			3	3			3	3			3	3			3
		自立活動	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)
		単 位 数 合 計	29(1)	29(1)	29(1)	87(3)	29(1)	29(1)	29(1)	87(3)	29(1)	29(1)	29(1)	87(3)	29(1)	29(1)	29(1)	87(3)
特別活動	ホームルームの週時数	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1
	ホームルーム活動	学科の特性に応じた進路指導を1年次よりホームルーム単位で行う。また、ホームルームや学年単位で豊かな人間関係の育成を目指すとともに、社会の一員としての望ましい資質や能力・態度を育てる。																
	生徒会活動	生徒会はクラスマッチ・交流祭等を、農業クラブ・工業クラブ・家庭クラブは農工祭等を企画運営することで、学校生活の充実を図るとともに役員のみならず生徒一人ひとりの自主的、実践的な態度を高め、人格の形成を目指す。																
	学校行事	田植えとその後の泥落とを兼ねた「さのぼり」、収穫を感謝する「収穫祝」、動植物感謝祭など専門高校ならではの学校行事を実施し、日本の伝統的文化を理解させ、学校生活をより充実したものにする。																

(注) ※は学校設定科目である。

(注) 「社会と情報」2単位を、生物生産科と食品科学科は1年次の「農業情報処理」で、都市緑地科と機械制御科は2年次の「農業情報処理」及び「情報技術基礎」で代替する。

(注) 選択科目については、2年次の左のはしごをA群、3年次の左のはしごをB群とし、各群から1科目を選択することとする。

(注) 「自立活動」は学校教育法施行規則第140条に基づき設定する障害に応じた特別指導であり、1～3年次において最大3単位の履修が可能である。

(3) 令和3年度入学生

高等学校の教育目標をもとにして、生物生産科は農業経営者や技術者の養成を、食品科学科、都市緑地科および機械制御科はそれぞれの中堅技術者の養成を目的とする。従って、各学科とも一般教養並びに専門技術を習得し得るような教育課程の編成をなし、専門科目については実験実習が効果的に実施できるように配慮してある。 第2・3学年においては生徒の適性、進路に応じたコース制及び学科の枠を超えた選択科目を設定する。	本校又は分校の別	全日制、定時制又は通信制の別	生徒数			
	本校	全日制	学 科	男	女	計
分校の名称	生物生産科		10	20	30	
		食品科学科	5	25	30	
		都市緑地科	20	10	30	
		機械制御科	25	5	30	
		計	60	60	120	

教科・科目等	学年	生物生産科				食品科学科				都市緑地科				機械制御科					
		1		3		1		3		1		3		1		3			
		生産技術	施設関係	生産技術	施設関係	食品科学	食品文化	食品科学	食品文化	1	2	3	計	1	2	3	計		
国語	国語総合	3				3				3				3				3	
	国語表現			2	(2)			2	(2)			2	(2)			2	(2)		
	現代文B		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		
	世界史A		2		2			2			2		2		2		2		
	地理A	2			2	2			2	2			2	2			2		
公民	現代社会			3	3			3	3			3	3			3	3		
数学	数学I	3			3	3			3	3			3	3			3		
	数学II		2	2	4		2	2	4		2	2	4		2	2	4		
	数学A		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)		
	数学B			2	(2)			2	(2)			2	(2)			2	(2)		
理科	科学と人間生活			2	2			2	2			2	2			2	2		
	物理基礎										2		2		2		2		
	化学基礎	2		2	2(2)	2		2	2(2)	2		2	2(2)	2		2	2(2)		
	生物基礎		2	2	2(2)		2	2	2(2)		2	2	2(2)		2	2	2(2)		
体育	体育	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7		
	保健	1	1		2	1	1		2	1	1		2	1	1		2		
芸術	音楽I		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)		
	美術I		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)		
	書道I		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)		
外国語	コミュニケーション英語I	3	2		3(2)	3	2		3(2)	3	2		3(2)	3	2		3(2)		
	英語表現I			2	2		2		2		2		2		2		2		
	英語会話		2		2		2		2		2		2		2		2		
家庭	家庭基礎	2			2	2			2	2			2	2			2		
情報	社会と情報	*				*				*				*					
小計		18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)	18	15(2)	14(4)	47(6)		
主として専門学科において開設される各教科・科目	農業	農業と環境	2		2	2			2	2			2				2		
		課題研究			3	3			3	3			3				3		
		総合実習	2	2	2	6	2	2	2	6	2	2	2	6					
		農業情報処理	2	2		4	2	2	2	6			2	2					
		作物	2			2													
		野菜		2	2	4													
		果樹	2		2	4													
		草花		2	2	4													
		畜産	2	2	2	4													
		農業経営	2			(2)									2			(2)	
		農業機械	2		2	4													
		食品製造					2	2	2	4	4								
		食品化学					2	2	2	4	2								
		微生物利用					2			2									
		植物バイオテクノロジー		2		2													
		農業経済			2	(2)							2	(2)			2	(2)	
		食品流通					2	2		(4)(2)					2			(2)	
		農業土木設計										2	2	4					
		農業土木施工										2	2	(4)(2)			2	(2)	
		水循環			2	(2)			2	(2)			2	(2)			2	(2)	
		造園技術										2	2	4					
		環境緑化材料										2		2					
		測量									4	2		6					
		グリーンライフ			2	(2)			2	(2)			2	(2)				2	(2)
		※園芸デザイン		2	2	4													
		※酒類醸造						2	2	4									
		※都市緑地デザイン										2	2	4					
	※自然災害と都市防災											2	2						
工業	工業技術基礎													4				4	
	課題研究															3		3	
	機械実習														4		4	8	
	機械製図													2	2	2	6		
	工業数理基礎													2			2		
	情報技術基礎														2		2		
	生産システム技術		2		(2)		2		(2)		2		(2)		2		(2)		
	機械工作														2		2		
	機械設計														2	2	4		
	原動機		2		(2)			2	(2)			2	(2)		2		(2)		
	電子機械		2		(2)			2	(2)			2	(2)		2		(2)		
家庭	フードデザイン						2	2	4										
	栄養								2	(2)									
小計		8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)	8	12(2)	11(4)	31(6)		
総合的な探究の時間(礎・産業基礎)		3			3	3			3	3			3	3			3		
自立活動		(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)	(1)	(1)	(1)	(3)		
単位数合計		29(1)	29(1)	29(1)	87(3)	29(1)	29(1)	29(1)	87(3)	29(1)	29(1)	29(1)	87(3)	29(1)	29(1)	29(1)	87(3)		
特別活動	ホームルーム活動	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3		
	指導計画の概要	ホームルーム活動 学科の特性に応じた進路指導を1年次よりホームルーム単位で行う。また、ホームルームや学年単位で豊かな人間関係の育成を目指すとともに、社会の一員としての望ましい資質や能力・態度を育てる。 生徒会活動 生徒会はクラスマッチ・交流祭等を、農業クラブ・工業クラブ・家庭クラブは農工祭等を企画運営することで、学校生活の充実を図るとともに役員のみならず生徒一人ひとりの自主的、実践的な態度を高め、人格の形成を目指す。 学校行事 田植えとその後の泥落としを兼ねた「さのぼり」、収穫を感謝する「収穫祝」、動植物感謝祭など専門高校ならではの学校行事を実施し、日本の伝統文化を理解させ、学校生活をより充実したものにする。																	

(注) ※は学校設定科目である。

(注) 「社会と情報」2単位を、生物生産科と食品科学科は1年次の「農業情報処理」で、都市緑地科と機械制御科は2年次の「農業情報処理」及び「情報技術基礎」で代替する。

(注) 選択科目については、2年次の左のはしごをA群、3年次の左のはしごをB群とし、各群から1科目を選択することとする。

(注) 「自立活動」は学校教育法施行規則第140条に基づき設定する障害に応じた特別の指導であり、1〜3年次において最大3単位の履修が可能である。単位の認定については増加単位による認定である。